



向洋中学校だより

校訓
誠実
協和
努力



令和2年1月20日号 北九州市立向洋中学校長 古閑 明子

◎今年の漢字一文字 ～全校生徒が今年にける思いを一文字に込めました。～

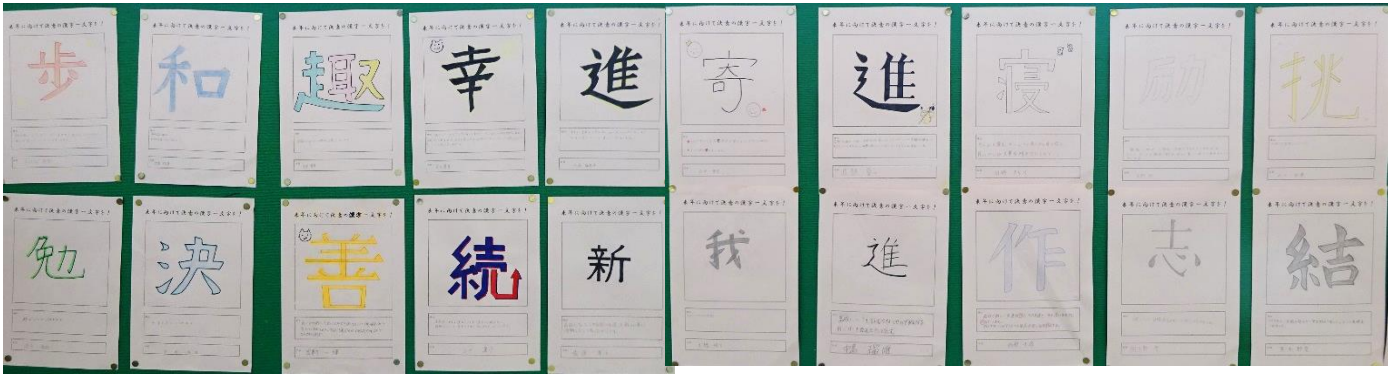
【1年生】



【2年生】



【3年生】



洋

「向洋中」の『洋』には、「遠洋」「海洋」など『大きな海』という意味があります。また、「東洋」「西洋」など、『世界を二つに分けたそれぞれの部分』という意味があります。さらに『ひろい』という意味があります。広い海を臨む高台に、校舎が建てられた際に、「広い世界で活躍する人を育てたい」という思いがあったのではないのでしょうか。

AIの普及等、めざましい技術革新が遂げられたり、グローバル化がますます進んだり、世の中は日々変化しています。皆さんの可能性は無限です。いろいろなことに興味をもって、夢を追いかけて、「広い世界で活躍する人になってほしい」と思います。その『根っこ』となる「学力及び社会性の基礎・基本」を、今しっかりと身に付けるように、先生達も一丸となって頑張ります。

新人大会 健闘を 称えます！

陸上部[女子砲丸投]2年 ██████████ <市内大会>3位⇒<県大会出場>
女子バスケット部<区内大会>準優勝⇒<市内大会>1回戦勝利、2回戦惜敗
女子バレー部(若松中と合同)<区内大会>準優勝⇒<市内大会>予選リーグ惜敗
野球部<区内大会>1回戦惜敗 男子バスケット部<区内大会>1回戦惜敗
吹奏楽部<東中14区敬老会><小石小フェスタ><赤崎市民C文化祭><吹奏楽連盟クリスマスコンサート>

◎学校・家庭・地域が連携した教育活動 ～アンケート結果より～

12月の保護者会の折には、「保護者アンケート」へのご協力ありがとうございました。「生徒アンケート」の結果とともにまとめました。結果から、成果と課題を明らかにし、3学期の教育活動に取り組んでいます。

★「家庭学習の習慣」については、「向洋ノート」の取組を見直したり、学力向上タイムに基礎的・基本的事項の課題テストをしたりします。また、期日までの課題提出の徹底を図ります。ご家庭でも、日常的に声かけをお願いします。

★「ゲーム・スマートフォン等の使用」については、使用時間と併せて、モラル等についても、繰り返し指導を行っています。個人情報特定されるような

SNSへの投稿、メールやLINE等のやり取りについて、ご家庭でも確認をお願いします。また、通信型ゲーム機や音楽端末などでもインターネットは利用できます。通信機器(スマートフォン・携帯電話・PC・ゲーム機)については、保護者の監督、責任の下で適正に利用させてください。

★「自分には良いところがある」と自信をもって、「将来に希望を抱く」生徒になってほしいと願い、「わかる授業」となるように工夫し、様々な場面で一人一人を認め、進路学習・体験学習等のキャリア教育を推進します。ご家庭でも、「子どもと夢を語り合おう(『北九州市子どもを育てる10ヶ条』より)」を心がけるようにしましょう。

本校の教育活動については、『向洋中学校区学校運営協議会(※)』でも説明し、ご意見をいただいています。年度末には学校関係者評価もしていただきます。それらやアンケート結果、スクールプランのPDCA等を踏まえて、3月に、今年度の本校教育活動の成果と課題を検証し、「学校評価報告書」として、ホームページに掲載します。

質問項目	肯定的な回答	
	生徒	保護者
基本的生活習慣の定着		77%
学校からの配付物を見せている		40%
「わかる授業」(話し合い活動、振り返り活動等)	94%	78%
「向洋ノート」の取組	56%	39%
家庭学習(平日60分以上)の習慣	25%	15%
ゲーム・スマートフォン等の使用時間(平日60分未満)	26%	
ゲーム・スマートフォン等についてルールを決めている		54%
体力向上の取組(授業、部活動等)	86%	83%
体育の授業時間以外に運動をしている(60分以上)	57%	54%
読書の習慣	57%	36%
朝食を毎日食べている	85%	87%
楽しく学校に登校している	82%	90%
思いやりの心や豊かな人間性が育まれている	82%	92%
清掃が行き届いている	83%	93%
自分の生き方を考える指導をしている		84%
自分には良いところがある	69%	
将来の展望や夢をもっている	69%	60%
地域の行事への参加	46%	31%

※『向洋中学校区学校運営協議会』

向洋中・小石小・赤崎小、それぞれで運営していた学校評議員会を、本年度より『向洋中学校区学校運営協議会』として3校合同で運営しています。3校のPTA会長・2つの自治会会長・社会福祉協議会会長・市民センター館長をメンバーとして、各学期、3校持ち回りで協議をしています。中学校区の保護者・地域の代表が当事者意識をもって、校区児童生徒の課題を話し合うことは、学校・家庭・地域が連携・協働する取組につながり、各校の課題解決のために有効です。



← 地域の方と一緒に門松を作りました。12/23



『全国中学生人権作文』 学校賞

『税についての作文』 若松税務署長賞 3年

北九州西県税事務所長賞 3年

『みんなの若戸大橋絵画コンクール』 若松法人会会長賞

3年